

## 第8回アドバンスコース研修会「拓本の取り方教室」

平成23年 7月24日(日)

午後1時30分～3時55分

西宮市立郷土資料館

2階講座室及び外部

7月24日(日)の午後1時頃から参加者が、次々に会場の西宮市立郷土資料館に集まってきた。まずは、2階の講座室に於いての講義で、講師は、会場の館長である西川 卓志さんです。参加者は16名。当初計画していた30名のほぼ半分。主催者としては、少し物足りなさを感じたのだが・・・。

講義に入る前に、まず、山崎さんから、今回のアドバンスコース実施のいきさつについての説明があり、更に、拓本についての一部解説がありました。

次いで、西川さんの講義が始まり、まず、拓本の取り方についての解説と注意点の指摘がありました。拓本の取り方としては、乾式と湿式の二種類があり、今日、体験するのは湿式です。また、拓本取りの為に必要なものとして、墨・タンポ・画仙紙・霧吹き等。

これらのものは現在、セットで販売されている。(この時に、主催者の一人である藤井さんから神戸元町の店で買い揃えたという声があがった。)特に、墨は油を入れて炊くので、とても匂いがきつく、その上、長時間かかるので、市販品を購入するのがベストです。

また、画仙紙についても、市販品を購入されるのがいい。(参加者の一人、藤原さんから墨を自分で作ったり、障子紙は使えないのかという質問があったので)



次いで、タンポづくりに挑戦、参加者全員を3班に分けて、夫々の班で、参加者一人一人が、藤井さんが用意してくれた綿と絹と紐を使って、思い思いの大きさのタンポづくりに挑戦した。とても小さなものから、見本と同じくらいの大きさのものまで、各班10個ぐらい作ったが、結構ワイワイとにぎやかな雰囲気であった。

一応、たんぼんづくりが終わったので、次に、実際に、拓本取りにかかることとなった。まず、西川さんが用意の為に一旦、会場から出て行かれた。しばらくして、戻られ、用意が

できたので、地階に行って欲しいとのことだったので、参加者全員、地下に行く事となった。地下では、拓本取りのために3つの石柱が用意されていた。ここでも、各班毎に、拓本取りを行うこととし、各班で夫々の石柱を決め、準備にとりかかった。

西川さんの説明を聞きながら、

まず、石柱の表面の清掃です。刷毛で掃き、霧吹きで水をかけました。

ついで、画仙紙を石柱に密着させ、タオルを蒔いたもので、軽く紙をたたく。

これもたたくのではなく、タオルを紙に密着させ軽く押さえていくという方法を勧める参加者もいた。更に、霧吹きで紙の表面に水をかけ、石柱と紙が密着するよう参加者が交代で行った。

次に、いよいよタンポを使っての墨つけなのだが、紙がどの程度乾いたらOKなのか、西川さんの説明を聞くのだが、難しい。

タンポンは2個使い、一つを墨に直接付け、その付けた墨をもう一つのタンポンになすりつけて、そのタンポンで紙をたたくのです。墨に直接付けたタンポンを使用すると墨が濃い過ぎて、紙を通り抜けて石柱本体を汚すのだ。

各班共、参加者全員が入れ替わり立ち替わり、さまざまな大きさのタンポンを使って、紙の表面をたたいて行った。この動作を2回繰り返し、各班共、2枚の拓本を取ることができた。



この拓本取りは、比較的小型で、しかも横に寝かせたものだったので、比較的容易な事例になるということで、次に、実際に建っている石柱で、拓本を取ろうということで、駐車場の植え込み部分に建っている石柱に挑戦することとなった。

この度は、3面を取ることにしたが、画仙紙1枚ではサイズの少し無理があるが、強行することとし、まず、表面の清掃、ついで霧吹きによる水かけ、植え込みなので下部は雑草で囲まれていたので、はさみを使って、少し刈り取った。画仙紙を石柱に密着させるが、結構文字の彫込がふかいので、紙を破らないように注意しながら作業を続けた。

外部では風もあり、紙の乾燥と作業に影響が出る。参加者が交代で、タンポに墨をつけ、たたく作業を行った。石柱本体を汚さないように、養生テープで紙を押さえた。



石柱は1本だけだったので、参加者全員でというわけにもいかず、希望者が次々に作業にかかわった。最後にゆっくりと紙をはがして、拓本取りは終了したのだが、新聞紙上に置くまでの間に風が吹き、紙が少し破れてしまった。

最後に再び2階の講座室に戻り、取った拓本を床に並べて、写真を撮り、西川さんから1枚ずつ講評を伺った。全体的には良くできているとのことだったので、参加者全員、とても喜んだ。でも、やはり、墨の濃淡がまだまだなようで、今後の体験により、技術の向上をめざす必要があるようです。

(文責 H20阪神 野山)

